

◆来年(2022年)のスギ・ヒノキ花粉の飛散予想(第1報)◆

『二つの民間気象会社による異なる来年の飛散予想』

-どちらが正しいのか?何が原因で予想が異なるのか?-

【当クリニックの2022年のスギ・ヒノキ花粉飛散予想 (2021.11月18日気象状況による予想)】

1.飛散量(都内)

スギ花粉 5,500個、ヒノキ花粉 550個 (ダーラム法:個/cm²・品川区)

昨年の130~140%(都内において)と増加

2.飛散開始 2月10日すぎ(例年並み)

そろそろ2022年来年のスギ・ヒノキ花粉飛散予報が気になる時期になりました。また、秋に飛散してくるスギ花粉は毎年見られる現象ですが、10月より飛散してくるスギ花粉が、現在、昨年の量より多い傾向があり、これを感じて受診する方も昨年より多い傾向が認められます。(参照、クリニック通信 Vol.83 秋のスギ花粉飛散と翌年のスギ花粉飛散)、前年の秋に飛散するスギ花粉と翌年の春飛散するスギ花粉には関連性があり、このことから、来年(2022年)のスギ花粉の飛散は、関東においては多くなると予想されています。

また、スギ花粉は夏で花芽の成長が進み花粉がほぼ出来上がってきているため、今年の9月のスギ雄花の着花量による観察によっても、関東地方においては、昨年より多い花粉が成長しているという報告を参考にしても、来年、都内で飛散してくるスギ花粉は昨年より多くなると予想されています。

◎関東においては、

① 飛散量が少なめであった昨年と比較すると、特に北関東で多くなる傾向
(都内において30~40%増加、北関東はより多い)

② 最近10年と比較すると、例年並みからやや多めの傾向

◎全国的には、

夏の雨量が多く日射量が少なかった関西では、昨年より少ない傾向

関東から東北にかけては、昨年より多くなる傾向

と予想されます。

【2つの気象会社の異なる予報】

①日本気象協会(2021年10月5日)

~東海から北海道で前シーズンより多く、非常に多い地点も

◆例年と比較すると、九州から北陸で例年並みか少なく、関東から北海道で例年より多い予想

◆前シーズンと比べると、九州から近畿は並みか少なく、東海から北海道で多い見込み

◆関東から北海道では前シーズンより非常に多い地点も

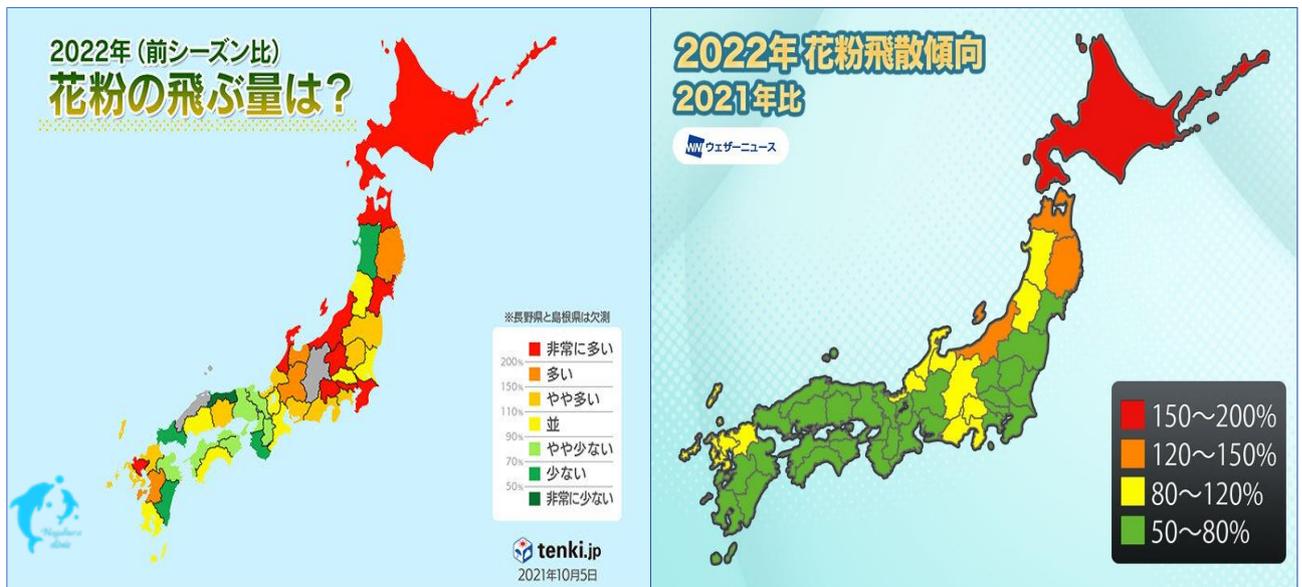
(https://tenki.jp/forecaster/y_higuchi/2021/10/05/14343.html)

②ウェザーニュース(2021年10月4日)

「来春のスギ・ヒノキ花粉は関東から九州で今年よりも少ない見込みです。一方、北日本や北陸では多いと予想しています。」

(<https://jp.weathernews.com/news/37660/>)

◆昨年(2021年)と来年(2022年)の飛散量を比較すると、



前シーズン比による花粉飛散量予測の違い (左：日本気象協会 VS 右：ウェザーニュース)

上の図を見ても分かるように、昨年の飛散量と比較して、

①日本気象協会

九州は地域差が大きく多い地域もあるもの全体には少ない地域が多く、西日本は少ない予想に、東海から北海道は多い予想となりました。

②ウェザーニュース

ほとんどの地域で少なく、多くなるのは北日本や北陸の一部のみという想となりました。

◆2つの予想はずいぶん異なります。関東地方についてみると、一つの予報では、非常に多くなる地域もあるのに対し、他の予想では、例年よりずっと少ない50~80%と全く逆の予数となっています。どちらが正しく予想しているのでしょうか？あるいは、両者が誤っているのでしょうか？

◆当クリニックでは、これまで30年以上も全国の予測を行っている専門家たち(NPO 花粉情報協会)

しながら予想をしています。その結果は、夏の気象条件からは梅雨明けが早かったもの、8月中旬には前線が停滞し、日射量がそれほど多くならなかった事、今年の春、全国的に花粉飛散少なかったため、木は樹勢が強まり花粉をつけやすい条件がそろったことを考えると、都内で昨年より30~40%増、例年平均より10~20%多めと予想されます。

◆過去 10 年の平均(例年比)と来年82022 年)の飛散量を比較すると、



例年比による花粉飛散量予測の違い（左：日本気象協会 VS 右：ウェザーニュース）

①日本気象協会

九州はほぼ例年なみ、中国、四国、近畿、東海は例年より少ない予想に、関東から北の地域は多く、南関東や北関東はさらに多くなる予想となりました。

②ウェザーニュース

80%から 120%の範囲という予想の設定は、非常に分かりにくい分類とも判断できますが、関東から甲信越で、特に少なく、西日本に行くにつれ、例年並みかやや多い地域から、また東北は例年並みかやや多い予想されました。

例年比でみる両者の違いは？

日本気象協会とウェザーニュースの大きな違いは、

①日本気象協会は、西日本で少なく、東日本は多い傾向を予想し、その中でも、関東が多くなる地域があると予想しました。

②ウェザーニュースは、関東から甲信越が最も少なくなる予想を、そして西日本、東北は例年なみを中止に、やや多いか少なるなると予想しました。

③最も大きな違いは、関東における予想が、日本気象協会は多く、ウェザーニュースは真逆ともいえる傾向で少なくなると予想してます。

◆何故、地域によっては、このような逆の予報となっているのでしょうか

その理由は、

- ① 花粉が多くなる条件である、平均気温と特に日射量を分析する期間と方法に差異あるため、ことなる予想となった可能性が高いと分析されます。
- ② 次の条件は、『木の樹勢』を正しく情報として分析して、これを予想する際、正しく評価しているか』という問題があります。

注)

樹の樹勢とは、『スギやヒノキの木は、前年花粉を多く付けた枝は、翌年休む花芽が多いため、花粉をつける量が減少するという条件を正しく分析に加える必要があります。』

3. 来年(2022年)の飛散は、どちらの傾向となるのでしょうか？

長年(過去30年以上)、日本のスギ・ヒノキ花粉飛散を手掛けていて、花粉予測の情報を交換、指導していただいている、『NPO 花粉情報協会』の専門家の分析方法を参考に、当クリニックの花粉飛散を予想すると次のようになります。

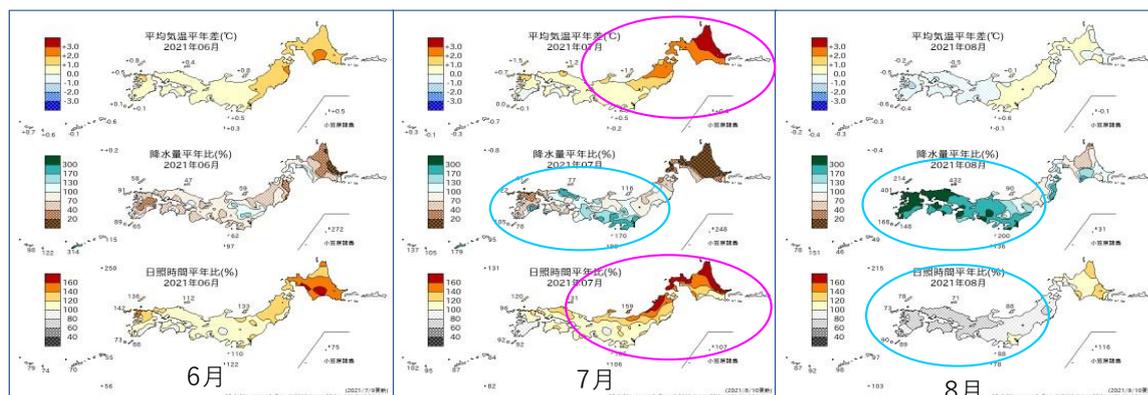
【当クリニックの予想】

- ① 例年と比較すると、九州から北陸で例年並みか少なく、関東から北陸で例年より多い。
- ② 前シーズンと比べると、九州から近畿は並みか少なく、東海から北陸で多い見込み。
- ③ 関東の一部を除いて多い傾向が特に北関東でさらに多い。
- ④ 北海道では前シーズンより非常に多い地点があると予想されているが、元々の飛散量が少なく、多くなると言っても、花粉飛散総数は少量であることを承知する必要があります。
と分析しています。

この分析の根拠を見てゆくと、

◆気象条件を分析すると

1.平均気温、降水量、日射量を比較すると(気象庁 HP データを引用)



2021年6月・7月・8月の平均気温・降水量・日射量の比較 (気象庁HPより引用)

増加因子

減少因子

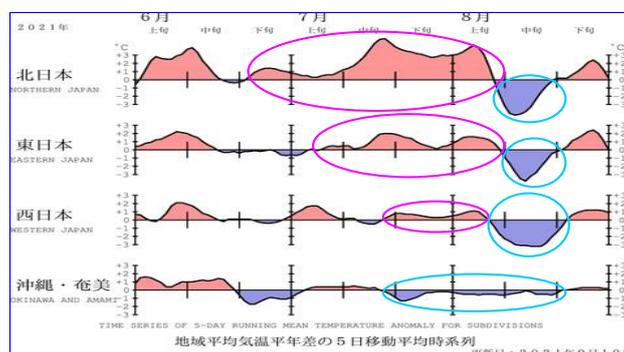
分析

- ①7月の平均気温と日射量ともに、関東から特に北日本で多く、
- ②8月になると全国的に平均気温と日射量ともに全国的に例年平均以下であり、特に西日本において平均気温も低く、雨量が多く、日射量が少ない傾向だった

予測

- ①例年との比較：九州から北陸で例年並みか少なく、関東から北海道で例年より多い予想
- ②過去10年平均との比較：九州から近畿は並みか少なく、東海、関東から北海道で多い予想

◆6月～8月の平均気温の推移をみると、



2021年6月・7月・8月の平均気温の推移 (気象庁HPより引用)

増加因子

減少因子

分析

- ①東日本は、7月中旬の早い梅雨明けとともに、平均気温が急激に上昇したが8月上旬をすぎると、前線に停滞により平均気温が中旬すぎまで低下した。
- ②西日本は、梅雨明け後も平均気温の上昇が少なく、8月上旬に入りとすぐ、雨量の多い地域が広く、平均気温が中旬すぎまで非常に低い日が続いた。

予測

- ①スギ花粉の着花量は、気温の上昇より、全日日射量(日射量)が最もよく相関すると分析されているが、平均気温の高低からも、来年の花粉飛散は、西日本<東日本<北日本の傾向が認められる。
- ②前年の花粉着花量の少なかった西日本においては、木の樹勢が強まり翌年花粉が多く発育する因子があるもの、それ以上、平均気温の高低による花粉着花量への影響の方が強いと分析されることより、来年の花粉飛散は、西日本<東日本<北日本の傾向が認められる。

4. その他の、来年の花粉の着花量に及ぼす因子は？

◆木の樹勢があります

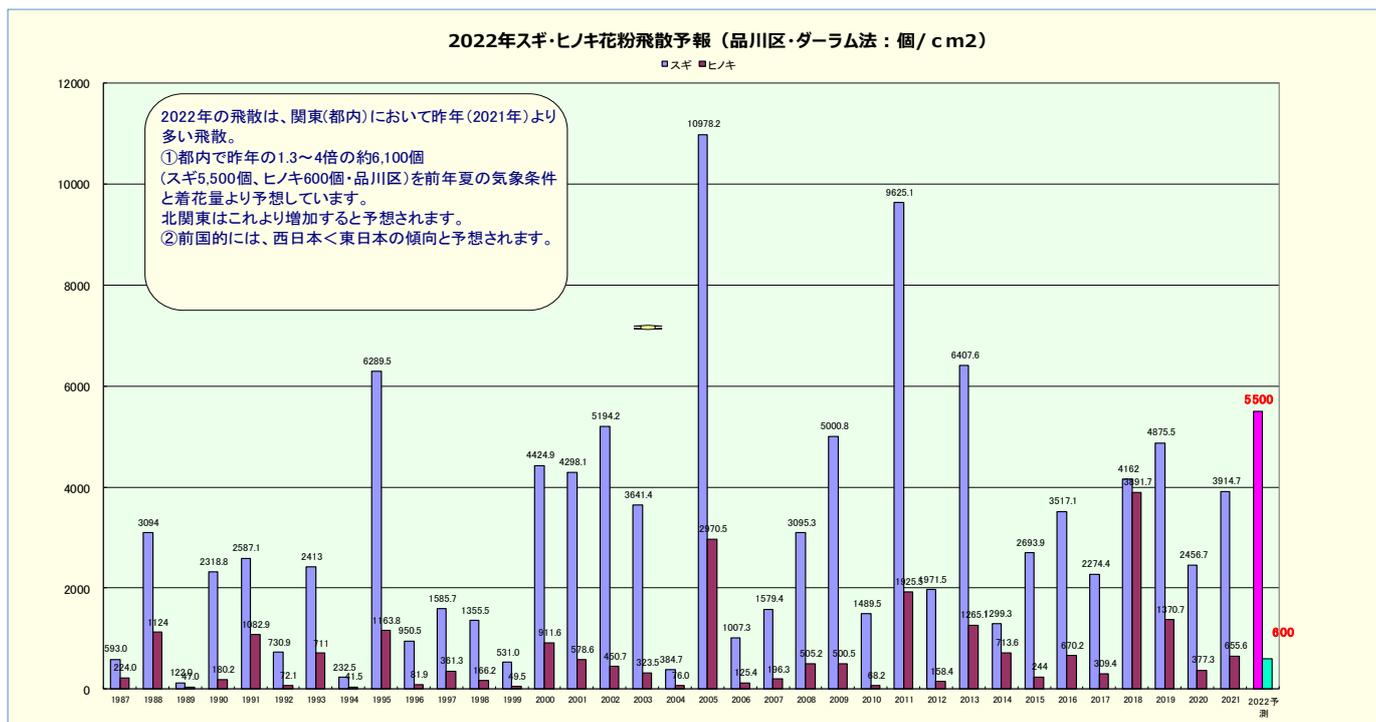
2021年春のスギ・ヒノキ花粉の飛散量は、例年の飛散量より少ない地域が大部分でした。そのため、木の樹勢からは、来年、大部分の木は、より花粉をつやすい条件を備えています。

5.最終的な、当クリニックの2022年の花粉予想

【飛散傾向：当クリニックの予想】

- ①関西では、雨量が多く日射量が少なく、平均気温も低いいため⇒昨年より多い地域もあるが少ない傾向
- ②関東から東北にかけては、日射量が多く、平均気温も高い期間があったため⇒昨年より多くなる傾向
- ③昨年と比較して飛散の増加が著しいのは、関東、甲信越、北陸の一部

6. 2022年都内の飛散量・飛散開始日予想



【当クリニックの 2022 年のスギ・ヒノキ花粉飛散予想:2021.11 月.8 日気象状況による予想】

1.飛散量(都内)

スギ花粉 5,500 個、ヒノキ花粉 550 個 (ダーラム法:個/cm²・品川区)

昨年の 130~140%(都内において)、例年平均の 110~120%

2.飛散開始 2 月 10 日すぎ(例年並み)

今年の 10 月、11 月の気温が高めできており、
気象協会の長期予報によれば、12 月~2 月気温が高めの確率が 70%となっています。

(https://tenki.jp/long/three_month/)

スギの木花芽は、

花粉が形成された後、一度寒気にさらされてその後気温が上がると、早く覚醒してくることが分かっており、
暖かい気象条件と来年も寒さがあまり厳しくない可能性が高いと分析すると、飛散開始は例年通りとなると分析され、
例年通り、2 月 10 日すぎの飛散開始を予想しています。

補足

毎年、8 月までにスギ花粉はほぼ成長しており、10 月になると僅かのスギ花粉が飛散してきており、この時期『秋のスギ花粉飛散』が多いと、翌年飛散する花粉総量が多いことを、これまでも当 HP で紹介してきましたが、今秋も 10 月と 11 月に比較的多めのスギ花粉が観測されていることも考慮すると、来年の東京都内においては、前年以上に多い花粉が飛散してくることが見込まれます。

(参考、クリニック通信 Vol.83 秋のスギ花粉飛散と翌年のスギ花粉飛散)

終わりに

秋のスギ花粉飛散は、当 HP でも紹介します。

◆来年(2022 年)のスギ・ヒノキ花粉の飛散予想は続報にて修正を加えます。

1 月からは◆2022 年のスギ・ヒノキ花粉の飛散情報◆を連日連載します。

来年の花粉予想、花粉情報をスギ花粉治療にお役立て下さい。

(以上)

